

平成16年の豪雨災害を踏まえた 治水対策のあり方について



近年の災害の特徴と新たな課題

自然的状況

災害の特徴	新たな課題
局所的な集中豪雨が頻発 流域面積が比較的小さい中小河川における洪水が多く発生	洪水予測等があまり行われてこなかった小流域である中小河川等においても、情報提供の充実をはじめ迅速な警戒避難体制の確立が必要
これまでの記録を超える降雨量、潮位、波高などが各地で観測	基本的にすべての災害対策において、自然の外力は施設能力を超える可能性が常にあることを踏まえた備えが必要
破堤(堤防の決壊)が多発 破堤した場合には氾濫した水のエネルギーは大きく水位上昇も急激であり、多くの人命・財産を失う大きな被害となる 堆積した泥の処理などの事後対応も被災者の大きな負担となる	破堤のように急激に災害現象が拡大することに対する対策が必要

「総合的な豪雨災害対策の推進について(提言)」より作成



近年の災害の特徴と新たな課題

社会的状況

災害の特徴	新たな課題
高齢者や共働き社会を支える保育園の園児といった災害時要援護者の被災が目立っている	少子高齢化の進展、生活・就業形態の変化等を踏まえた警戒避難体制の確立が必要
旧来型の地域コミュニティの衰退、水防団員の減少・高齢化などにより、地域の災害時の共助体制が脆弱になってきている	近年の社会的状況の変化を踏まえた共助体制の再構築が必要
避難勧告の発令等の遅れがあったほか、発令されても避難しない住民が多数に上った 住民や自治体等の災害経験が減少し、危機意識も低下	災害時に的確な認識や行動がなされるような仕組みが必要
地下鉄・地下街などの利用者が増加している中で、地下空間が多数浸水	都市域の地下空間の浸水に対する防御と的確な避難誘導体制の構築が必要

「総合的な豪雨災害対策の推進について(提言)」より作成



今後の対策の基本的方向

ソフト対策とハード整備が一体となった減災体制の確立
災害安全度の早期向上のための多様な整備手法の導入、既存施設の有効活用、管理の高度化・効率化
地域防災力の再構築への本格的支援

できるだけ早期に効果的に災害安全度を高める

画一的でなく個々の必要性に応じた安全度や機能確保を図る方策の導入

操作ルールの変更による既存施設の有効活用

従前の考え方にこだわらない計画・整備・管理

自然の外力は施設能力を超える可能性が常にあることを踏まえた備え

施設能力を超える自然の外力が発生し施設を破壊した場合にも壊滅的な被害とならないよう、

施設の維持管理の高度化・効率化を図る

万が一の場合の危機管理体制を構築

よりの確に避難等ができ、自治体が防災活動を行えるような情報提供のあり方

地域別のわかりやすい予測情報、氾濫情報など、被害軽減に必要な情報を充実

(送り手情報から受けて情報への転換)

自らが災害発生時に的確に行動できるような平常時からの情報の共有

災害環境情報及び災害行動情報が平常時から共有される社会への転換

地域防災力の再構築

多様な主体の参加による水防体制の強化、広域的な支援体制の確立、地域ぐるみの防災

教育の推進を本格的に支援

自助、共助、公助のバランスのとれた地域防災力の再構築を図る



福井豪雨災害現場等視察会に参加された方の感想・意見

【感想】

- ・ 足羽川上流部の土砂災害のすさまじさと、橋梁をいくつも流し去る破壊力に驚いた。
- ・ 被災から8ヶ月経った足羽川は、下流では土嚢が堤防に積まれ、上流では落橋した橋があったりと、まだ災害の傷跡が残っていた。美山町には土石流被災家屋が残されており、家屋に埋まった土砂が道路をまたいで私の背丈程までできていた話を聞き、被災当時を生々しく想像した。
- ・ JR越美北線橋梁が崩落したことで、電車を利用していた学生などが代行バスは出ているものの大変不便な思いをしていると案内して下さった方から聞き、橋梁崩落が生活に与えている影響の大きさを知った。

越美北線橋梁流出



土砂が入り込んだ家屋(美山町)

福井豪雨災害現場等視察会に参加された方の感想・意見

【意見】

< 堤防、橋梁等について >

- ・ 堤防自体の質、橋梁や仮設構造など破堤問題を重く考える必要がある。
- ・ 越流しても破堤しない堤防、流されない橋梁の視点が重要。
- ・ 堤防道路、高水敷の施設、流木類の問題も軽く扱ってはいけない。
- ・ 堤防の土質も考慮した詳細な点検を早急に実施することが必要で、破堤する可能性がある箇所があれば、何よりも第一に対策を行うべき。
- ・ 橋梁が多く架かる庄内川でも、橋梁が被災した場合の影響は非常に大きいと思われるので、福井のケースを今後の庄内川における対策の検討に活かせるのではないかな。



足羽川破堤箇所
(福井市内)



福井豪雨災害現場等視察会に参加された方の感想・意見

福井市防災ステーション



【意見】

< 関係機関との連携について >

- ・ 短時間集中の豪雨であっても関係機関との連携が測れるよう普段より準備しておく必要がある。

< 防災センター等の拠点や地域との関わりについて >

- ・ 災害後の支援物資の集積・仕分け場所としての機能にも活用できるようにしておく必要がある。
- ・ 防災センターではハードだけではなく、かつての水害予防組合活動等で培われた防災の経験も語り継がれていかれる必要があり、土木と市民を繋ぐ仕掛けとして活用できる。
- ・ 常時からの住民の災害に対する意識を高める体験学習や講座等の定期的開催が必要。
- ・ 防災だけに限定せず、広く庄内川に係わる活動の場として提供すれば、流域住民や市民グループと河川管理者との連携拠点になる。



九頭竜川資料館

